



第 11 回 東京エリア Debian 勉強会 事前資料

Debian 勉強会会場係 上川純一*

2005 年 12 月 10 日

* Debian Project Official Developer

目次

1	Introduction To Debian 勉強会	2
1.1	講師紹介	2
1.2	事前課題紹介	2
2	Debian Weekly News trivia quiz	3
2.1	2005 年??号	3
3	最近の Debian 関連のミーティング報告	4
3.1	東京エリア Debian 勉強会 10 回目報告	4
4	???	5
5	一年間 Debian 勉強会をやってみて	6
5.1	ワークフロー	6
5.2	JDMC のような大きなイベントのワークフロー	6
5.3	勉強会の事前資料の作成	7
5.4	やった内容	8
5.5	おきたトラブル	9
5.6	できた内容	9
5.7	今後やりたいこと	9
6	Keysigning Party	10
7	次回	11

1 Introduction To Debian 勉強会

上川純一



今月の Debian 勉強会へようこそ．これから Debian のあやしい世界に入るといふ方も，すでにどっぷりとつかっているといふ方も，月に一回 Debian について語りませんか？

目的として下記の二つを考えています．

- メールではよみとれない，もしくはよみとってられないような情報を情報共有する場をつくる
- まとまっていない Debian を利用する際の情報をまとめて，ある程度の塊として出してみる

また，東京には Linux の勉強会はたくさんありますので，Debian に限定した勉強会にします．Linux の基本的な利用方法などが知りたい方は，他でがんばってください．Debian の勉強会ということで究極的には参加者全員が Debian Package をがりがりと作りながらスーパーハッカーになれるような姿を妄想しています．

Debian をこれからどうするといふ能動的な展開への土台としての空間を提供し，情報の共有をしたい，というのが目的です．次回は違うこと言ってるかもしれませんが，御容赦を．

1.1 講師紹介

- 未定 誰？
- 上川純一 宴会の幹事です．

1.2 事前課題紹介

今回の事前課題は「Debian 勉強会について思う事」というタイトルで 200-800 文字程度の文章を書いてください．というものでした．その課題に対して下記の内容を提出いただきました．

1.2.1

1.2.2 上川

あとで埋める予定．

2 Debian Weekly News trivia quiz

上川純一



ところで、Debian Weekly News (DWN) は読んでいますか？Debian 界隈でおきていることについて書いている Debian Weekly News. 毎回読んでいるといろいろと分かって来ますが、一人で読んでいても、解説が少ないので、意味がわからないところもあるかも知れません．みんなで DWN を読んでみましょう．

漫然と読むだけではおもしろくないので、DWN の記事から出題した以下の質問にこたえてみてください．後で内容は解説します．

2.1 2005 年??号

問題 1.

- A
- B
- C

3 最近の Debian 関連のミーティング報告

上川純一



3.1 東京エリア Debian 勉強会 10 回目報告

前回開催した第 10 回目の勉強会の報告をします。

4 ???

???さん



5 一年間 Debian 勉強会をやってみて

上川



この記事の目的は、終ってからだと忘れてしまいそうだし、最中だといそがしくていっぱいなのでどこにも記録されずに忘れ去られてしまいそうな事項についてメモをしています。

希望としては、ここに書いてある内容を見て、会議の運営をてつだってもらえるようになればよいと思っています。

5.1 ワークフロー

Debian 勉強会を毎回実施する際に利用したワークフローを紹介します。今後の勉強会などの参考にしてください。
TODO

5.1.1 2ヵ月前

会場の予約

5.1.2 1ヵ月前

講師の確保資料の作成開始スケジュールの公表

5.1.3 1週間前

宴会の会場選定など資料のデッドラインリマインダーの送付

5.1.4 2日前

宴会の人数確定宴会予約

5.2 JDMC のような大きなイベントのワークフロー

Japan Debian Miniconf などのイベントを開催する上で重要な点は

- 連絡先を明確にする。
- 緊急時に判断をできる人を明確にする。
- 連絡網を整備する。
- ディスカッションができて、そこで決定した事項が合意したとみなせる環境をきめてしまう。たとえば IRC。

一人ではかぶりきれない責任もあるため、大きなイベントでは、本気で責任をもって開催したい、と思っている人が複数いる必要があります。

会議の内容をログに残して全員に周知させる係の人が必要。実働部隊と分けられればわけたほうがよい。JDMC では、矢吹さんだけに情報が集中していたはず。メーリングリスト上ではながれていない情報が多数あった。

また、メーリングリストで流れる情報は時系列なので、現在のステータスを一覧で把握できない。

タスクトラッキングが重要。

5.2.1 2年前

参加者が稼働できるように日程を確保する．スポンサーにあたりをつけはじめる．マネージメント層に交渉する．

5.2.2 1年前

スポンサーの予算が確定する．前年度のイベントに参加して運営側で何がおきるかを明確にする．会場のサイジングなどをする．

5.2.3 1月前

会場を確保する．宴会場を確保する．

予約システムを整備し，広報する

広報は Slashdot へたれこむ Blog メーリングリスト IRC などのくちこみ Mixi などのソーシャルネットワーク GPG サインをするのなら準備，広報する．

5.3 勉強会の事前資料の作成

事前資料は latex で作成しました．作業は大きく 3 種類ありました．

- クイズの作成
- 参加事前課題の作成
- 勉強会のネタの作成

5.3.1 クイズ

クイズについては，latex のマクロでクイズを作成できるようにして，それを利用して本文を作成しました．

latex のソースに下記のように記述すると，

```
\santaku{問題文}{回答 A}{回答 B}{回答 C}
```

下記のような出力がでるようになりました．

問題 2. 問題文

A 回答 A

B 回答 B

C 回答 C

5.3.2 参加事前課題

メールにて参加者から plain text できたものを気合いで latex になおしました．latex で使えない文字というのが

あるので，それをエスケープすることと，構造文書については，構造を latex ように下記直すという手順が必要です．

例えば，下記のような文章は

```
これについて
こんなことをしてみた
あれについて
あんなことをしてみた
それについて
いっぱいしてみた
```

itemize 環境を利用して下記のような文書になります．


```
\begin{itemize}
\item{これについて} こんなことをしてみた
\item{あれについて} あんなことをしてみた
\item{それについて} いっぱいしてみた
\end{itemize}
```

- これについて こんなことをしてみた
- あれについて あんなことをしてみた
- それについて いっぱいしてみた

5.3.3 勉強会のネタ

講師の方に直接 latex で文書を書いてもらいました．CVS レポジトリは alioth.debian.org でホスティングしてもらったので，そこで共同開発者という形で参加してもらいました．

latex のスタイルはほぼそのまま jsarticle を採用しています．ただ，セクションのはじめの部分だけはこった見掛けにしようとしてしまったので，dancersection というマクロを作って独自に定義しています．各筆者は dancersection 以下に適当に subsection を作って文書を作成したらよい，ということになっています．

```
\dancersection{一年間 Debian 勉強会をやってみて}{上川}
\label{sec:uekawa}
%% 上川の記事はここから
\subsection{セクションの名称 }

文章がだらだらと続く

\subsubsection{セクションの名称 }

.
.
.

\subsection{セクションの名称 }
.
.
.
```

5.4 やった内容

やった内容はけっこういろいろありました．最初は一般的なうけをねらったものもありましたが，全体的には技術的な内容を主としています．

- 毎月のクイズ
- 最初の数回はグループワーク
- バックアップリストアについて
- ネットワーク監視
- reportbug の使い方
- debhelper
- Social Contract
- po-debconf
- lintian/linda
- dpkg-cross
- dsys/update-alternatives
- debian-installer
- dpatch
- toolchain
- ITP からアップロードまでの流れ
- debconf 2005 参加報告
- Debian JP web の改革

- debconf の使い方
- apt-listbugs
- debbugs
- dpkg-statoverride
- Debian Weekly News 日本語翻訳のフロー

5.5 おきたトラブル

勉強会を毎月開催する上で発生したトラブルを紹介します．かっこの中の数字はどれくらいの確率でおきたような気がしているかというのをなんとなく定量的に書いてみました．

- パソコンが盗まれる (10%)
- 家が水没する (10%)
- 病気で倒れる (20%)
- 〆切におくれる (20%)
- なぜか講師のひとと前日まで音信不通 (10%)
- 20 分くらいまえに連絡してきて、来れないという参加予定者がいる． (100%)
- 何も連絡なく来ない人がいる (100%)
- なぜか赤字 (40%)

5.6 できた内容

事前課題により事前に awareness を向上．いろいろと知らないことを積極的に調べることで講師がその分野に詳しくなる．調査して文章を書いている過程でバグが気に入らないので、バグが直る

勉強会をクイズではじめてみんなで発言することにより場を和ませることができたか？

終わってからの blog へのリンク、議事録の掲載についてはあまり反響が無い．事前資料の PDF についてはいろいろと blog とかをみているとコメントがあった．

5.7 今後やりたいこと

事前の打合せをもっと密にしたい．

IRC の debianjp チャンネルで偶然いたメンバーで、なんとなく打合せはできたが、事実上打合せは上川が電話で呼び出してどっかの飲み屋でする、とかで進んだ．

事後の処理をなんとかしたい．開催した結果をもっと参加していない人にもわかるように効率よくアウトプットできないだろうか．

他の人が参加したいと思えるようなアウトプットが出せないだろうか．

6 Keysigning Party

上川純一



事前に必要なもの

- 自分の鍵の fingerprint を書いた紙 (gpg --fingerprint XXXX の出力.)
- 写真付きの公的機関の発行する身分証明書, fingerprint に書いてある名前が自分のものであると証明するもの

キーサインで確認する内容

- 相手が主張している名前の人物であることを信頼できる身分証明書で証明しているか^{*1}.
- 相手が fingerprint を自分のものだと言っているか
- 相手の fingerprint に書いてあるメールアドレスにメールをおくって, その暗号鍵にて復号化することができるか

手順としては

- 相手の証明書を見て, 相手だと確認
- fingerprint の書いてある紙を受けとり, これが自分の fingerprint だということを説明してもらう
- (後日) gpg 署名をしたあと, 鍵のメールアドレスに対して暗号化して送付, 相手が復号化してキーサーバにアップロードする (gpg --sign-key XXXXX, gpg --export --armor XXXX)

^{*1} いままで見た事の無い種類の身分証明書を見せられてもその身分証明書の妥当性は判断しにくいので, 学生証明書やなんとか技術者の証明書の利用範囲は制限される. 運転免許証明書やパスポートが妥当と上川は判断している

7 次回



未定です．東京での次回は?月?日土曜日の夜を予定しています．内容は本日決定予定です．
参加者募集はまた後程．



Debian 勉強会資料

2005 年 12 月 10 日 初版第 1 刷発行

東京エリア Debian 勉強会（編集・印刷・発行）
